

平成27年度第2回中国地域発展推進会議

- 日時 : 平成27年11月6日(金) 15:20～16:45
- 場所 : ホテルニューオータニ鳥取3階「鶴の間(西)」
(鳥取県鳥取市今町2丁目153)
- 出席者 : 会長 溝口鳥根県知事
副会長 山下中国経済連合会会長
平井鳥取県知事、伊原木岡山県知事、湯崎広島県知事、村岡山口県知事
藤縄鳥取県商工会議所連合会会長、宮脇鳥根経済同友会代表幹事、
岡崎岡山県商工会議所連合会会長、深山広島県商工会議所連合会会頭、
川上山口県商工会議所連合会会頭
事務局長: 鳥根県政策企画局長 他
- 意見交換 :
 - ①女性の活躍推進について
 - ②インバウンド観光の推進について
- 報告
豊かで活力に溢れた中国地域の創生に向けて

○事務局長 定刻となりましたので、ただ今から平成27年度第2回中国地域発展推進会議を開会いたします。

私、この会議の進行を務めさせていただきます、鳥根県の丸山です。よろしくお願いいたします。

最初に、開会に当たりまして、会長の溝口鳥根県知事、続いて副会長の山下中国経済連合会会長、開催県であります鳥取県の平井知事から、順次御挨拶をいただきます。

最初に、溝口会長、よろしくお願いいたします。

○溝口会長 本日は、経済界の皆様方にはこの発展推進会議に御出席をいただきまして、誠にありがとうございます。心から御礼申し上げます。

御承知のように、この会議は中国地方各県知事と中国5県の経済界の代表が集まり、この地域の経済の活性化など諸問題について協議する場となっております。今、日本全体が人口減少問題、そのために地方をいかにして創生していくかという問題に取り組んでいるところで、中国5県におきましても、経済界の皆様の御意見なども踏まえて、それぞれ先般、総合戦略を策定したところです。

やはり地方創生を進めて、人口を増やすためには、若い人たちが安心して働くことのできる雇用の場を増やすことが最も大きな課題の一つです。そのためには、産業振興を進めていかなければならないわけです。そして、若い人たちが仕事と子育てを両立できるよ

うに、いろんな支援も必要ですけれども、経済界におかれましても、環境づくりについてお取り組みいただきたいという面もあるわけです。

本日は、こうした問題について、行政と経済界が一体となり議論を進め、この問題解決に向けてさらに進んでいこうという場です。そういう意味で主要な項目といたしましては、先程の産業振興、子育て支援について、その中でも女性の活躍、女性が働きながら子育てができる環境づくり、そして、産業振興の一つですけれども、特にインバウンドの観光を中心としたものは5県で協力をしていくといったようなことが大変大事です。2020年に予定されている東京オリンピック・パラリンピックに向けて、中国5県の協力関係を進めていきたいと考えておりますので、よろしく願い申し上げまして、開会に当たり、御挨拶にかえさせていただきます。よろしく願い申し上げます。（拍手）

○事務局長 続きます、山下副会長、お願いいたします。

○山下副会長 皆さん、こんにちは。中国経済連合会の山下です。経済界として一言御挨拶をさせていただきます。

本日は、溝口知事をはじめとする、大変お忙しい5県の知事様がこういうふうに一堂に会して、私どもとこのような会議を開催できますこと、大変うれしく、本当にありがとうございます。心から御礼申し上げます。

また、平井知事はじめ、鳥取県の皆様方には、地元としていろいろと御配慮をいただきました。あわせて御礼申し上げたいと思います。

また、私ども経済界に対して、知事の皆様にはいろいろなところで、いろんな場面で御指導、御支援をいただいておりますことを、この場を借りて御礼を申し上げたいと思います。

さて、中国地方の経済情勢であります、足元の業績、企業業績が堅調に推移をいたしておりますものの、中国経済の減速などの影響から、ここへ来て少し先行き不透明感が広がっていると私どもは認識いたしております。今後、行政と企業の双方の取組によって、回り始めた経済の好循環を止めることなく、デフレ脱却をして雇用の安定を確実なものにしていくことが必要であろうかと考えております。

こうした中で、先程溝口知事も触れられましたけれども、国の後押しを受けまして、人口ビジョンや総合戦略の策定など、各県において地方創生の取組が進みつつありまして、私

ども経済界としても意を強くし、大いに期待し、そしてまた、私どもも覚悟を決めて取り組んでいかなければならないと思っているところであります。

当連合会におきましては、一昨日、中国地域の創生に向けて国への要望活動を行ってまいりました。内容については、後ほど簡単に触れさせていただきますけども、御当地出身の創生大臣、石破創生大臣とお会いしたけども、石破大臣の危機感ということと、それから、いつも言われることでありますが、地域間の競争であるよというふうなことに加えまして、一昨日は、やはり行政、企業ともに、この人口減少の中で効率的な運営をしていく、効率的な活動をしていく、生産性を上げていくということが大事ではないかと、そういうふうなお話がありました。我々としてはこれを最後のチャンスといたしまして、行政とも一緒になって進めさせていただきたいと、こういうふうに使っております。我々この中国地方が行政と各県の皆様方と一緒に、課題先進地域から課題解決の先進地域にしていきたいと、覚悟を持って思っているところであります。

こういうことですので、今日は、私ども経済界のそれぞれの各県のトップと皆様方とお話をさせていただくことが非常に大事なものだと考えておまして、皆様方と本当に忌憚のない意見を交わらせていただきたいと思います。

大変簡単ではございますが、以上です。ありがとうございました。（拍手）

○事務局長 ありがとうございます。

続きまして、平井知事、お願いいたします。

○平井知事 皆様、こんにちは。

「今一度 訪ひたしと思ふ この村に 辣蕪（らっきょう）の花 咲き盛るころ」

これは皇后陛下の御歌でございます。今、砂丘にラッキョウが植えつけてありますが、ちょうど紫色の花が咲いている、その終わり頃の時期となりました。秋深まりゆくこの鳥取に皆様をお迎えできたこと、本当に感謝を申し上げたいと思いますし、心から歓迎を申し上げたいと思います。

5県の知事と、今ほど意見交換をしておりました。さらに、山下会長様、宮脇代表幹事、岡崎会長、深山会頭、川上会頭にもお越しをいただき、ここでまた論議を深めることができます。限られた時間ではありますけれども、ぜひ鳥取路を楽しんでいただきたいと思います。

今日、皆様をお迎えするに当たりまして、地元の藤縄会長にも大変な御尽力を賜りまして設営をさせていただいております。この後の意見交換会も含めましてごゆっくりとお楽しみをいただき、有意義な会議となることを期待してやみません。

先般、NHKの「ダーウィンが来た！」で、鳥取の海が取り上げられました。それはタツノオトシゴがお互いに交尾をするわけですが、ちょうど唇を合わせてハート型を作るわけです。それで、雄の袋の中に雌の卵が入りまして、雄が育てるといふ、そういう様子が撮られておりました。

今日、折しも総理が一億総活躍社会に向けまして、予算編成の指示を飛ばしたと報道されています。ぜひこの場を通じまして、男女共同参画、あるいは高齢者の参画、いろいろな意味で人々が輝くような時代を作っていく、それに向けた子育てや女性の社会参画について有意義な議論ができることを願ってやみません。

また、先程お話もありましたように、今、知事会の方で、企業の皆さん、経済界の皆さんと知事会とが一体となって、インバウンド観光を進めていく新しいプラットホームを作ろうという話し合いができたわけです。ぜひまた具体的に歩みを進めていただき、これから近畿や九州に負けないような、外国人が憧れる中国地方になるように、皆様の有意義な御議論をいただければありがたいと思います。

皆様のために、本日は、鳥取県、カニの解禁日を迎えております。「蟹取県」とも改名をさせていただきました。皆様の今日この1日が、大変思い出深い日となることを願っております。蟹取県へウェルカニ。（拍手）

○事務局長 ありがとうございました。

本日の会議は、規約9条によりまして会長が議長を務めることとなっておりますので、これから先の議事につきましては溝口会長にお願いします。

○溝口会長 それでは、議事に入ります。

先程申し上げましたように、議論のテーマは2つです。最初のテーマが、「女性の活躍推進について」です。それから、2番目のテーマは、「インバウンド観光の推進について」です。それぞれ30分程度、全体で議論をしたいと思います。

最初に、女性の活躍推進については、鳥取県から、岡山県、広島県、山口県、そして、島根県と参ります。それから、経済界の方は、こちらから順番に御意見を伺いますので、

よろしくお願ひ申し上げます。

それでは、平井知事から願ひします。

○平井知事 それでは、口火を切らせていただきたいと思います。お手元に鳥取県の資料、1ページ目、2ページ目とついであります。

まず、最近の動きとして、これは広島県の湯崎知事が提唱されていたのを私どもでも引き継いだわけですが、イクボス宣言をさせていただきます。藤縄会長も今、イクボスになっておられます。経済界の方でも企業の輪が今広がってきてあります。

また、子育てについては、鳥取県として、第3子以降の保育料無償化をこの9月から実現しました。所得制限なし、年齢制限なしの対策となっております。

特徴的なところでは、「森のようちえん」という事業を応援しようと、この4月から取組を進めているところでして、今、県内にも数が増えてきており、これが移住の呼び込みにもなっているところでは。

ただ、やはり国の政策の裏打ちが必要です。一億総活躍社会の予算がどうなるか注目をしたいと思いますが、国の後押しも今後必要だと思います。

あと、もう一つ大切なのは、企業の協力です。経済界でも、この軌を一にした対策をしていただけるようお願いを申し上げたいと思います。

その意味で、2ページですが、鳥取県では、藤縄会長がトップになられまして「輝く女性活躍加速化とっとり会議」を設置し、先般施行された女性活躍推進法の法律上の協議会に指定をしたところでは。また、近々、総合的な相談窓口を開く予定としてありますし、また、女性の参画のためのいろいろな応援の事業も取り組んでいるところでは。

鳥取県として今、経済界の皆様や労働界など関係者の方々と話し合っていますのは、女性の活躍を増やそうということです。実は鳥取県、働く女性の割合は全国7位ですが、管理的な地位の女性は平均以下というギャップがあります。これを埋めていこうと、今、企業とも軌を一にして取組をさせていただきます。その環境整備などについての助成制度も作り、登録企業制度も作ったところでは。

また、藤縄会長からもしつかりとしたお話があると思いますので、私の方からは以上とさせていただきます。

○溝口会長 ありがとうございます。

伊原木知事、お願いします。

○伊原木知事 岡山県もしっかり頑張っております。また、鳥取県と同じく岡山県でも、広島県を見習って、私もイクボス宣言をさせていただきました。県警、それから教育委員会、あと、これから民間の方にも広げていくべく、岡崎会頭ほかの皆様方に御協力をお願いしているところです。

岡山県では、この働く女性に対する支援、先ほどの鳥取県の資料の次にありますが、働く女性に対してステップアップにつながる講座ですとか、管理職となる人材の育成ですとか、さらには創業を支援するサポートセンターを作ったりしております。また、働きたい女性に対する支援も行っておりますし、働きやすい環境づくりの支援ということも考えております。

あと、10月におかやま創生総合戦略をつくったわけではありますが、女性と高齢者の労働参加率の向上、出産、子育て後の女性の再就職等の支援、女性の創業促進など、女性の活躍推進に向けた施策を多く盛り込んでおりまして、KPIとしても、女性の生産年齢人口に対する常用労働者の割合のM字カーブを平らにしようということを掲げたところです。正直言って、まだどの施策が効果があるのかははっきり分かっていない状況ですので、いろいろ試して効果のあるものを拡充していく、各県のうまくいったやり方を取り入れさせていただくという考え方で、できる限り女性を応援したいと思っております。以上です。

○溝口会長 ありがとうございます。

湯崎知事、お願いします。

○湯崎知事 広島県も、岡山県の資料に続いて、7ページからでありますけれども、まず1つは、今日も御出席されております深山会頭のイニシアチブによりまして、中国地方で初めて「働く女性応援隊ひろしま」という、これは経済団体、労働団体、行政が一体となった推進組織を昨年の4月に結成をしております。そこもベースにしながらか、様々なこの事業展開を今年度もしておりますし、県でもこの左の下箱にありますような女性の活躍先進事例の普及というために、先進の事例のノウハウ導入手引書といったようなものを作ったりしているところであります。

それから、8ページになりますが、女性が子育てをしながら安心して働き続けるために

は、男性が育児参画をするということが欠かせないところでありまして、これも昨年の3月に「イクメン企業同盟ひろしま」というものを結成いたしまして、イクボスの輪の拡大などをしております。メンバーも非常に増えておりまして、関心も高まっているところかなと思っておりますが、このイクメン企業同盟、男女がともに育児と仕事を両立していくという趣旨でありますので、イクメンだけではなくて女性も応援しなければいけないという意味で、イクボス同盟という形に進化をしようかなと今進めているところであります。

それから、さらに環境整備という観点から、9ページになりますけれども、やはり保育という問題、これにしっかりと取り組んでいっております。我々の考えとしては、待機児童というときに、特にやはり年度当初の数が問題にされるのですけれども、年度当初よりは実は保育人数というか、年度の最初に定員が埋まってしまって、途中待機児童が増えるという現象が起きておりまして、年度途中でもしっかりと安心して預けられる保育環境の整備ということが重要だと思っております。そういった観点から、1つは保育コンシェルジュであるとか、あるいは保育士が足りないということが定員の問題と連動していますので、保育士人材バンクを運営したりであるとか、また事業所内保育所、認可型の事業所内保育所、これも実は県が広島銀行と一緒に事業所内保育所を作るといったことも進めております。更には、先程申し上げたような年度途中に発生する入所待ち児童、これは定員が受け入れられないことが多いわけでありまして、認可外保育施設を使った場合にも負担増を助成するといったようなことで、認可保育所と同じような負担で預けることができるといったようなことにも取り組んでおります。

今後も他県とも連絡あるいは情報交換をしながら、この施策の充実を進めていきたいと思っております。

○溝口会長 ありがとうございます。

村岡知事。

○村岡知事 山口県です。資料は11ページと12ページです。女性の活躍促進を進めていく上で、他県でも同じですが、男性の方の協力をしっかりとやらなければいけないということで、私もイクボス宣言もさせてもらいましたし、県庁の中でも各所属長がやるということで取り組み、さらに、民間にもそれを広げていこうとやっております。また、企業の方でできるだけイクメンを応援してもらおうよう、企業の宣言制度や表彰制度に加えて、

男性の育休に対する奨励金を、1日以上の子育休を取得した場合から対象にして広く支援するというところから始めています。

それから、女性の活躍促進そのものということでは、非常にこれは大きな問題だと思っております。山口県の社会減は、人口の流出超過が年間3,600人ぐらいですが、そのうち女性が約二千二、三百人で、流出が非常に激しいという問題があります。主には福岡県への流出が多く、中でも女性が多いということですから、女性が活躍できるような環境をもっともっと力を入れて作っていかねばいけないと思っております。

その一環として、今、特徴的な取組を申しますと、12ページにあるように、「女性創業応援やまぐち株式会社」という会社を、県が半分出資をして、残り半分を山口銀行や県内の企業に出資をしてもらい、立ち上げております。これは今年度立ち上げましたが、昨年度に女性が会社を興すのに生じる女性ならではのいろんな問題、例えばマナーですとか、そういったことも含めた女性に特化した「女性創業セミナー」というのを開催したところ、非常に評判が良く、これをさらに実際の事業化に展開をさせていきたいということで、女性創業応援会社を作りました。女性が会社を興して事業をしようと思うと、やはり資金的な問題、あとは女一人で何ができるんだといった信用に関する問題とか、そういったハードルが非常に高いわけでありまして。そこを最初の段階から、しっかりサポートしていこうということでありまして。その応援会社が創業希望者から事業の提案を受けて、いい事業を選んで会社の方から資金を提供する。これは会社の委託という形で資金を提供して、あとはいろんなノウハウなども伝授して、会社が円滑に立ち上がるようにサポートするということでもあります。今年、6事業ほど認定をしまして、今動き出しているところでもありますので、こういったものを具体的な成果に結びつけていくように、しっかりサポートしていこうということでもあります。この取組は、先日の一億総活躍国民会議の資料の中でも紹介していただいております、そういった形で女性が活躍できるような地域だということ、もっともっと売り出していかねばいけないと思っております。

また、各県の取組や経済界の取組もしっかりと参考にしながら、より充実できればと思っておりますので、どうかよろしく申し上げます。以上です。

○溝口会長 ありがとうございます。

3ページに戻っていただきますが、島根県では、女性の就職継続意欲は高いが、管理的職業者の割合が少ないという課題があります。また、家庭の役割分担では、家事は妻の仕

事とする意識が高いという課題があります。こうしたことをいかに是正していくかということが取組の方向ですが、次のページをご覧くださいますと、一般的にやはり男女共同参画を推進しなければならないと。職業生活におきましては、育児休業を取得した後も継続して勤務できるように、小規模事業者等への支援をするという制度を今度の総合戦略の中で決めまして、来年度から実施をする予定です。

それから、島根県では、以前から「こっころカンパニー」と称しまして、子育て支援に積極的な企業を認定し、県の入札において入札参加資格審査で加点することなどにより、子育て支援を推進しております。

それから、女性の活躍推進につきましては、島根県は、中小企業、零細企業が多いわけですが、女性活躍推進法に基づく事業主行動計画の策定に取り組む中小企業を支援していこう。あるいは、女性のキャリア形成ということになりますと、管理者の割合が少ないということがありまして、管理者の間でいろいろ助け合うと申しますか、ネットワークのようなものを作ろうと努力をしているところです。

また、子育て中のお母さん方が再就職する際の支援、あるいはそのセミナーなどを行っているところです。

また、大事なことは、地域で女性の方々が大変働いてくださっており、そういうものを推進する施策を展開している状況です。

時間の関係で、短くて申し訳ありませんが、経済界の皆様方の御意見等をお伺いします。

山下副会長、いかがですか。

○山下副会長 まずは、企業における女性の活躍推進につきまして、行政の皆様方がいろいろな施策を知事のリーダーシップのもとに進めていらっしゃることに對して、本当に敬意と感謝を申し上げたいと思います。

我々企業側といたしまして、女性の活躍というのは非常に必要であると考え、総論についてはよく理解していますが、実際に各論になるときに、戸惑いを覚えている企業も結構あるのではないかと感じております。そういう中で、我々経済界は行政と一緒にあって、この環境づくりのためのいろいろなセミナーやら推進施策を行っているところであり、今後も続けていかなければいけないと考えております。

そういう中で、女性の活躍推進法の成立を受けまして、企業には数値目標を含む行動計画の作成が求められているわけでありまして。企業としては、今後、自社の現状をしっかりと

と把握して、レベルアップにつなげていく取組が不可欠と考えております。我々としては、これから会員企業の状況を調査する予定としておりまして、そういう中で女性登用拡大に向けてどのように具体的な課題を解決していけばいいのか、どういう施策をしていけばいいのか、そういうことを調べて、調査結果を踏まえて啓発活動や先進的な取組事例の紹介などを通じて、会員企業、団体の積極的な取組を後押ししていきたいと考えております。以上です。

○溝口会長 ありがとうございます。

それでは、藤縄会長から順次、お願いいたします。

○藤縄会長 先程の平井知事のお話と重なる部分もありますけれども、2点、お話をさせていただきたいと思います。

1点目ですが、鳥取県はもともと女性が非常に活躍しやすい環境が平井県政のもとで整ってきております。例えば女性の就業率、それから共働き世帯の比率、それから人口当たりの保育所の数とか、産婦人科医の数とか、小児科の先生の数とか、また出生率につきましても、いずれも全国トップテン以内、しかもかなり上の方に位置しておりますし、保育所の待機児童者数はゼロですから、これは全国1位です。

そうした中で、先程お話がありましたように、昨年7月に官民労連携で「輝く女性活躍加速化とっとり会議」というのが発足いたしました。この会議は、女性管理職の増加、従業員10人以上の企業で25%以上、100人以上で30%以上という管理職をもっていこうということを基本目標にしておりまして、働きやすい職場環境の改善ですとか、ワーク・ライフ・バランスの推進等を図ろうとしているものです。

このために、女性従業員のキャリアアップのためのセミナーの開催や、女性活躍に向けた企業の行動計画案の策定を支援する。あるいは、今年1月と9月には、200名ほどの参加者が集まりましたフォーラムを開催しておりますし、県とタイアップしながら女性活躍の機運づくりや実践に向けた活動を進めておるところです。このほか男女共同参画キャラバン隊というのをつくりまして、女性の経営者や従業員との意見交換を行っておりますし、今年7月には、この会議の中に「とっとり女性活躍ネットワーク会議」というのができまして、女性の視点で女性活躍のための仕掛けを企画し、また実施するという組織ができ上がっております。

2点目ですけれども、これは平成16年に始まりました鳥取県男女共同参画推進企業の認定制度というのがありまして、これには現在543社が認定を受けておりますけれども、そのうち女性活躍推進モデル企業を、輝く女性活躍パワーアップ企業ということにして登録をしております。これが現在7社ございます。そして、先程のイクボス宣言ですけれども、これをしております企業は現在16社でありますけれども、両方とも今後急速に増えていくものと思っております。いずれにいたしましても、購買力、労働力両面で最もポテンシャルがありますのは高齢者と女性でありますから、これからの地域経済と社会の充実を支えるのに女性の力は不可欠だという認識のもとに、女性パワーの発揮に向けて知恵を絞っていこうと思っております。以上です。

○溝口会長 ありがとうございます。

宮脇代表幹事、お願いします。

○宮脇代表幹事 お手元に資料をお配りさせていただきますので、その資料に基づいて説明をさせていただきます。

まず、最初にある資料、ちょっと古いんですが、島根労働局から依頼があり、私がお話したときの資料です。

これは、一つには国の仕組みと経営者の仕組みがあり、いろんな壁があるわけです。男性社会としての壁、育児の壁、待遇の壁、ただ、ここで忘れていけないのは女性自身の壁もあるんです。これは諦めているとか、挑戦しない、責任を問う、政治経済はちょっと苦手。これ、知事が最初に説明された2番目の、女性の就労意識は高いけども、どうしてもマネジメントレベルにはいかない大きな原因ではないかなと。そこで、国の制度と企業としての制度をタイアップして就労・生活環境など外的要因の向上に加えて、女性自らの意識と同時に、男性の本音での理解が要ると考えます。

島根県でマネジメントでも10億ぐらいを担当しているような企業というのは、大体女性の就労風土がいいんです。したがって、いろんな方針とかマニュアルも必要なんですけれども、毎日働いていく現実の中で、女性が会社等の期待、あるいは役割の中で、それを認識した働ける風土づくりというものを作ることが非常に大切であるということをご申し上げたい。それは多くの場合、企業の経営者であり、その部分で我々経済界としてこれを広げていく大きな義務があるのではないかと思います。

2 ページ目、ポイントだけ申し上げます。これは昭和30年生まれと平成2年生まれの女性の実際のデータです。この比較で、生涯未婚が倍になっています。4人に1人は結婚しない。そして、結婚したけど、子供がいないのも倍になっています。子供1人が増えています。子供2人というのが大体33%ぐらい。そして、子供3人家庭が減っています。4人以上というのは、昔に比べ、まさに壊滅的な状況であって、国宝もんですね、この家庭人たちは。このデータ傾向がこのまま続いていきますと、生涯未婚というのが4人に1人になる。生涯子供のいない人たちが4割、そしてそのままいくと、生涯孫のない人も出てくると。そうすると、日本の社会保障制度というのは、年金、医療、介護というのは、世代と世代の支え合いで成り立っていると、私は大学で学んだんですけども、それも崩れると。子孫を持ち、家系を継いでいくことが、前提の制度というのは難しくなる。国債の発行とか遺産相続なんかもやっぱり制度そのものが変わっていくのではないかと。いずれにしても、これは企業としても大きな責任になるわけですから、子供が生まれるような仕組みを作らなきゃいけない。

次の3 ページ目、これは、全国の企業の開廃業率です。企業でも特に地方は自然減が起きてるわけですね、人口と同じで。閉鎖、倒産、そして廃業に対して、起こす企業が非常に少ないんですね。特に島根県の場合はネットマイナスになってますから、これをもっともっと経済界としては、インキュベーターをつくらなきゃならない。その中で、先程も各県の施策にありましたように、女性の力で起業していくようなことが必要ではないかというように思っております。

そして、これが最後のページですが、これは実は島根県だけのデータです。中国地方のデータを見ましたが大体同じです。新卒者が3年以内に離職するわけです。ですから、いろんなマッチメイキングをしても、結局せっかくいい人材を入れても、その企業風土に合わないと短期間で辞めていくわけですね。島根で辞めた結果、東京とか関西に若者が流れては意味がないわけです。ですから、企業風土を作ることが非常に必要であると。特に辞めていくのは、サービス業が多く、ホテル業などいっぱいあるんでしょうけども、女性が多いんですよ。ですから、片方でいろんな施策も必要なんですけども、会社などの現場で何が起きてるのかと、そこに対して何をしなきゃいけないのかと、どういう人たちがどう流動性を持っているのかということを考えなきゃいけないと思います。

表にありますのは、アンケート調査ですが、現在の仕事にやりがいを感じてますかという問いに、感じているのは職場の風土とか待遇が良いとか、やりがいがあるとか愛着を感

じているのは、やはり人間関係がいいとか社風が合うとかになっています。その辺というものは僕たち経済界が非常に大きな責務を負っているわけですから、そういう風土、環境整備というものをきちっとやって、これ行政と一緒にやりながら進めていかないとなかなか本当に定着した女性の管理者が増えていくとかの結果が出ないといけない。特に地方は男性よりも女性の方が非常にマンパワー的にも知的にも高い人がいっぱいいますから、この人たちを使うのは大きな戦力になると再認識する必要がある。ただ、その背景には、現実的には非常にきちっとした企業の風土整備というものが必要であると思っております。そして、それは行政と経済界とがきちっと、地味ですけども、女性の特性を踏まえた現実的な施策を広げていかなきゃいけないのではないかと思います。以上です。

○溝口会長 ありがとうございます。

岡崎会長、お願いします。

○岡崎会長 岡崎です。

まさに今、企業では人手不足になっておりまして、何とか働き手を確保したいと思っているわけです。そうした中で女性の活躍に期待しようということは、大いに賛成であり期待しているところでもあります。一方で、国は子供の出生率を上げて欲しい、子供をもつと産んで欲しいと言っています。すなわち女性は一方では働いてもらいたい、一方では子供を産んでもらいたい、そのうえ介護にも手がとられるということで、非常に大変だなと感じております。これを克服していくためには、やはり働き方、それぞれの勤めているところの待遇とかを考え合わせて、様々な方策を用いていかないと難しいと思っております。

また、今度の推進法の基本方針では、男性の意識改革を事業主が取り組むということになっていますが、会社内でのことは別として、事業主、イクボスとして、家庭内のこと、例えば家事分担だとか、育児その他のことも取り扱っていかなければならず、そこまで家庭のことに手を突っ込むというのは難しく、ハードルが高いという感じがします。

ただ、最近の男性は、見ていると非常に優しい。小さな赤ちゃんや子供がいるご夫婦を見かけますが、外で抱っこをしているのは、最近では男性であることが多いと思います。それだけ変わってきたということですから、意識が大きく変化するのではとの期待を持っています。

ただ、女性管理職の登用という点については問題があると思います。全体の管理職の3

割を女性でという話があります。これは大企業だけで、中小企業については当面努力目標ということになっていますが、実際のところ中小企業では社内の制度が整っていないのが実情です。それから、会社によっては、一般職と総合職というのが区分けがされていて、一般職から管理職に上がるということはまず考えられませんから、一般職の社員を変更して総合職からやり直さなければならない場合もあります。

意識を変えなければいけない場合もあれば、制度を変えなければいけない場合もあります。施設の面では、国や自治体による保育施設の整備ということも重要です。大きな会社では自分のところで保育施設を作ったりしていますが、中小企業ではなかなかそこまでできません。託児所のように小さなときからずっと見てくれて、子供が2人いても3人いても働けるようにするためには、施設整備を十分にやっていただかないと難しいと思います。

ですから、女性の活用を推進するためには相当時間がかかります。政府では2020年までに30%にという目標を立てておられますが、これは人事制度そのものを変更しなければならず、かなり難しいなというのが、正直な感想です。

また、主婦の方々に、フルタイムで働くことが難しい場合は、例えばパートとかの選択をされます。税法上の問題で、現在、年収が103万円以上あると配偶者控除なしになることから、このあたりの改善も考えていただくことが必要です。企業としては、先程申し上げたように、総合職、一般職の見直し、それから、パートや派遣の方の正規社員化など、実現できるところから取り組んでいくべきかと思っています。以上です。

○溝口会長 ありがとうございます。

深山会頭、お願いいたします。

○深山会頭 私からは、まず、女性の活躍を推進する上で欠かせない人材育成にまつわる県内の旅行会社の取組を紹介させていただきたいと思います。

広島市に本社があるひろでん中国新聞旅行という会社は、これは正社員、契約社員合わせて60名くらいの会社であります。広島商工会議所が厚生労働省から委託を受けて推進をしておりますジョブ・カード制度の有期の実習型の訓練を活用して、女性の契約社員を正社員へと登用する仕組みを確立しておられます。具体的に申し上げますと、入社1年目の契約社員を対象に、先輩社員が講師役となって、旅行業の基礎をはじめ、正社員の登

用に向けた研修を継続して行うということで、旅行業のプロとなる人材の育成に努めておられます。契約社員から正社員への登用の仕組みが確立されたということで、社内全体のレベルアップが図られて、社員の意欲向上につながっていると聞いております。このようにジョブ・カード制度をはじめとした行政の支援制度を活用することは、女性の活躍推進を図る上で有効なツールの一つになるのではないかと考えておりました、商工会議所としても、企業への利用促進を図っていきたくと考えております。

それから、もう1点申し上げたいのは、教育の側面から、特に学生への教育という面から、男女を問わず多様な働き方ができる仕組みづくりが必要だと思っておりますが、そのための社会風土の醸成が、やはり海外と比べると遅れているのではないかと感じております。若者が成人になってから考え方を大きく変えるということはなかなか難しいのではないかと考えておりますので、学校教育の中で、多様な働き方や、男性が育児や家事を行うことの大切さなどを教えるとともに、学生同士がディスカッションするような機会を設けて、男女が担う役割のあり方などを早くから真剣に考える時間が必要ではないかと考えております。

先程知事から話がありました「働く女性応援隊ひろしま」におきましても、現在は女性経営者などによるセミナーを開催し、多くの方に参加をいただいておりますが、この対象を大学生あるいは高校生向けに、例えばばりばり働く女性経営者、あるいは仕事と家事を両立している方など、多様な働き方を実践している方による研修会、講演会の開催でありますとか、直接交流が図れる場を設けるということで、学生自身が将来の人生設計をより鮮明にイメージできたり、このようになりたいという具体的な目標を立てることになって、自身の働き方あるいは社会のあり方などを変えるいいきっかけになるのではないかと考えております。

最後に、このテーマの最終的なゴールは、女性の活躍推進という言葉がなくなることではないかと考えております。今日、皆さんがお話しになられたそれぞれの取組を、行政、地域、経済界が一体となって進めていき、近い将来、性別にかかわらず各人、各家庭に合った形態で仕事をして、家事をし、子育てをし、そして、高齢者も自身の体力などに応じて地域を支える取組ですとか、これまでのキャリアを生かした仕事ができるというような、そんな社会になることを目指していくべきではないかと考えております。以上です。

○溝口会長 ありがとうございます。

川上会頭、お願いいたします。

○川上会頭 まさに今から人口減少を迎えていく中で、女性が今まで以上に活躍していくということは非常に重要なことだと思いますし、また、そういう社会に是非仕上げていきたいと、我々も思うところです。

女性がただ働くだけではなくて、活躍できる場をいかに与えていくかということが非常に重要ではないかと思えます。そういう意味で、先程、村岡知事の方から山口銀行とのタイアップによる女性創業の支援についてご紹介がありましたが、あと、山口県内ではもう一つの銀行がありますが、そちらの方でも女性の活躍を支援の一つとして出産手当、3人目は確か100万円だったと思えますが、思い切った、これは新聞にも大きく載りましたが、3人目の子供が生まれた場合には100万円の出産手当を出す企業も出てきています。こういう格好での女性の活躍支援ですね。また今、この2つの側面でちょっと私もよく分からない面もあるのですが、女性の活躍をどんどん進めていくべきだというような動き、これはもう当然必要だと思いますし、それと少子高齢化とをいかに結びつけていくかということです。これはやはり、振り返ってみますと、20年前は我々の会社においても、女性は結婚すれば一般的には辞めて行って家庭に入り、そして子供を育てる。子供ができるまでは勤めて、子供ができたら辞めて行って子供の面倒を見るというのが、一般的だったんですね。今は、子供ができても1年間の育児休業で1年間休業して、それからまた、再び復帰してくるというのが、大半です。そういった方向に世の中はどんどん変わっているということですが、反面、その間はやはり非正規雇用というか、非正規の社員をその仕事に充てるということで、非正規が逆にその間増えてしまうという課題も一つ出ているということもあろうかと思えます。しかしながら、いろんな点はあるでしょうが、女性が輝けるような社会にいかにしていくか、難しい面はありますが、我々もそういった意味で、企業全体でそういう意識の向上を図りながら、女性社員の積極的活用ということを中心にしなければなりませんし、商工会議所としてもそういう意識改革の活動をまずはやっていければと思っていますところ。以上です。

○溝口会長 ありがとうございます。

経済界の皆さんのサジェスション、参考になります。これをやったらできるという話がなかなかなくて、やはり行政と経済界、そして地域の皆さんと、できることから、そして、そういう意識を持つことを増やしていくという地道な作業をしなければならないのではな

いかと感ずるわけですが、時間の関係上、このテーマはここで打ち切らせていただきまして、次は、インバウンドについて議論をさせていただきたいと思います。

最初に、平井知事の方から説明をお願いします。

○平井知事 では、私の方からお話を申し上げたいと思います。

先程知事会の方で議論をさせていただきましたが、お手元の「インバウンド観光の推進」という資料になります。これについて、中国経済連合会の山下会長をはじめ、いろんな方々に御尽力をいただき、また、広島県に事務局を務めていただいている従来の中国地域観光推進協議会があります。併せて知事会の方で海外観光客誘致部会を作っております。これらをまとめて統合することにさせていただき、なお一層強力で民と官が一体となったインバウンド観光を進めていければと思います。

先程の議論を若干総括させていただきますと、1 ページ目の表にありますように、先般、中国経済連合会などと一緒になりまして、伊原木知事を団長にトッププロモーションをタイでやってまいりました。また2 ページ目ですが、こういうことを今後強力で皆さんと話し合いをしながら進めていければと思います。

先程も若干議論がありましたが、どこに重点地域を置くか、例えば香港が、今度香港ドラゴン航空が広島に就航し、さらにそのほか観光客も増えているところで、一つのターゲットかもしれません。また、今、村岡知事が韓国から定期便を引き込もうとされており、韓国との航空路線でいえば、中国地域はどこも結ばれているということになっております。もちろん台湾など、従来のお客さんの多いところもあります。重点地域もある程度考えながら周遊観光を目指す、それを今後の運動方針としていきたいと考えております。

それから、もう1枚のペーパーにありますように、当面、東京オリンピック後くらいで150万人というのを目指していけないだろうか、従来のものを引き上げていくべきではないだろうか、このような考え方も持っております。ただ、これに進んでいくためには、やはり強力なJRだとか航空会社だとか観光業界も一体となった対策が必要でして、今日この場をスタート地点にして、取組が加速化することを願っております。ぜひ皆様の活発な御意見と御協力をいただきたいと思います。

○溝口会長 ありがとうございます。

平井知事からインバウンド観光の推進についての御説明がありました。知事会としても、

この問題は各県だけでやるのではなくて、中国5県の連携もそうですし、四国とも連携をしようと進めつつあります。

時間の関係がありますので、まず、経済界の皆様からお一人3分ぐらいで、インバウンド観光につきましてのサジェスションなり御意見なりをいただき、その後、知事会の方から御意見をいただきたいと思っておりますので、よろしくお願ひします。

○山下副会長 ありがとうございます。私からは中国地域観光推進協議会の会長の立場で発言させていただきます。

まずは、本日御出席の皆様には、日頃から協議会の事業運営について本当にお世話になっておりまして、誠にありがとうございます。また、先程紹介がありましたが、7月のタイ現地プロモーション活動では、伊原木知事に代表を務めていただきました。知事の絶妙なトークで大変盛り上がったと報告を受けております。ありがとうございました。

さて、ただいま平井知事からの御説明いただいた提案ですけれども、協議会の活動に非常にたくさん大きな力を与えるもの、知事会としてコミットをいただけるということ、大変心強く、この内容で、私どもも賛成です、その方向で中国地域観光推進協議会の中で語りたいと思っておりますので、今ここでぱつと言うわけにはいきませんが、その方向で進めさせていただきますと思います。

そしてまた、今回、外国人延べ宿泊者数の目標、意欲的に150万人以上と、会長としては非常にハードルが高いんでありますけれども、その分やりがいもあります。目標達成に向けて、皆さんと一緒に頑張っていきたいと思ひます。

この中国地域観光推進協議会としては、今後は特に山陽と山陰の縦の周遊、誘客に注力をし、中国地域全体の観光振興を一層図っていきたいと考えております。地方創生の一つの柱というふうに私ども受けておりまして、全力を挙げて頑張りますので、引き続き御指導、御支援をよろしくお願ひいたします。以上です。

○溝口会長 それでは、藤縄会長、お願ひします。

○藤縄会長 新たな海外観光客誘致体制の実施事業のところ今、山下会長もおっしゃいましたけど、山陰と山陽の縦のラインを新たに結んでということについては大賛成です。インバウンドもそうですし、それに限らず、観光振興など、非常に地域間の連携というの

は大切だと思っておりますので、今まであまりなかった縦ラインが柱に据えられるというのは、鳥取県としても大変ありがたいことです。

それから、同じく新たな海外観光客誘致体制の中にバス協会ですとか旅客船とか航空会社、こういうバスとか船とか飛行機の協会なり会社が加わっていただくということも大変いいことだと思っております。

それと、話はちょっと飛ぶんですけども、9月に新しい観光庁の長官が鳥取にお見えになりまして、そのときにお願ひしましたのが、全国7つの広域周遊ルート、これに山陰が外れておりまして、これはもう困りますということで、平井知事も先頭になってちょっとお願ひをされたことがありました。地方創生であったり、一億総活躍というからには、これも全国、全地域入れるのが当たり前だと思いますので、何とか再検討をお願ひしたいということです。

それから、もう1点、その場でもお願ひしたんですが、鳥取の独自の問題になるんですが、大阪を起点とするJRの外国人向け周遊フリーパスというのがあるんですが、これが鳥取県のすぐ隣の兵庫県浜坂市で切れるんですね。鳥取まで来てないので、これもJR西日本に大分強く要請、お願ひをしているところです。以上です。

○溝口会長 ありがとうございます。

宮脇代表幹事。

○宮脇代表幹事 産業革命をしのぐ革命と言われているインターネットはどうしてこんなに大きくなったのか。従来は優れたスタンドアローン、独立したCPUというのが入り用だったんですが、それを繋いだわけです。全部ネットワークにして、さらにそのネットワークの中のスピードをリアルタイムレスポンスに近だけ上げてきて、今があるわけです。僕、観光も同じだと思うわけです。

一点豪華主義的なスタンドアローンの景観とか建物とか文化遺産、歴史遺産、ホテル宿泊、これは繋がなきゃいけないですね。これらを中国地方でネットワーク化して、そこに、できたらストーリー性を持たせるとよい。最近いろいろと体験をしたいと。松江で「エヴァンゲリオンと日本刀展」を1回見せたんですけども、外国人が大勢来てました。刀がやっぱり好きなんですね。たまたま触れたんですよ。触りたい、見てみたいと、見るだけじゃおもしろくないってやるんだから、そういう体験も少しトッピングをして、そして後は

SNSと映像ですか、こういったものをしていってそれぞれを回していかないと、中国地方では、さっき平井知事がおっしゃったような泊数は難しいかもしれない。

ただ、欧米人が非常に好きなんですね。爆買いは当分、都会の方へ行っちゃうでしょうけども、私ちょうど先々週、中国に行ってまして、中国の旅行会社が韓国に随分連れていったらしいんですね。ソウルはじめ、韓国へ行った中国人たちは、二度と行かないって言っていました、1回行ったらいいと。でも、皆さん、日本は何回も行きたいって言うらしいですね。ですから、やっぱりこの国の持っているすばらしい魅力というのがあるわけですし、恐らく爆買いとかも次にだんだん地方の良さって、原風景に返ってくるわけですから、それを受けるようなホスピタリティーとか、そういったものが必要ではないのかなと思います。

その中で、先程差し上げた資料の一番最後にありますけども、きっかけが必要だと思うんです。何かしなきゃいけないと、地方も何か、きっかけがないんですね。ですから、いろんなきっかけをつくって、要は自立したもの同士が連携しないと意味がないわけですね。自主自立プラス自己責任と自己負担というものの精神をやっぱり産学官、みんなが持っていかなきゃいけないと。やっぱり主体は産学公民の民です、民を主体にした中でやっていかなきゃいけない。

そういった形で、観光というのはいろんな県で共通のコラボレーションができる一番いい題材だと思いますので、中経連も含めて、観光というのは一つの口出しにして、各県で政財界も行政も一緒にやっていますから、これはもっともっと深掘りをして、僕たちも努力をしなきゃいけないと思っています。以上です。

○溝口会長 ありがとうございます。

岡崎会長、お願いいたします。

○岡崎会長 岡山です。

観光客を呼ぶことの意味は、要するに地域にお金を落としてもらいたいという点にあるわけですから、その観点から、今の爆買いをしている中国人観光客は、大勢で来日し、たくさんのお金を落としてくれる非常にありがたい存在だと思います。

そういう面では、この2ページ目に載っている外国人の宿泊客の数字を見ると、台湾、中国、韓国、香港といったところが非常に多く、こういったところをターゲットに誘致す

ることはとても効果的な取組だと思います。

ただ、このところ岡山駅では、アジア以外の外国人が随分増えています。ここ二、三年でしょうか、岡山の後樂園には、随分外国人が来ていて、特にフランス人が多くやって来ています。何故かと思って聞いてみたら、なんて言いましたかある観光誌が影響していました。（伊原木知事から「ミシュランガイド」と示唆する声あり）ミシュランガイドを参照しながら旅をする欧米人も多く、本に掲載されたということだけで、随分と観光客の増加につながった事例があります。ガイドブックに載るだけで観光客の増加につながることは非常に素晴らしいことだと思いますが、同じようなことがネットの世界にもあります。

岡山の西大寺地区のお祭りに、会陽というのがあります。これは2月の寒いときに行われるはだか祭りという祭りですが、これも最近外国人、特に欧米人が随分増えていて、まわし一丁の姿になって参加してきます。年々参加者が増えている訳を尋ねてみると、参加してくるのは日本で英語を教えている外国の人が多く、その人達がSNS、ソーシャルネットワーキングサービスで発信していて、それを見た他の外国人教師が集まって来ているという状況のようです。外国人、特に欧米人はやっぱりバックパッカーが多く、割合少人数で活動していて、その点、アジア地域の団体旅行とは異なる特徴を持っています。そういう人たちを呼ぶためには、地域にいてインターネットを駆使する外国の人たちから、日本国内、世界に向けて地域の観光情報を発信してもらえるような工夫やシステムづくりができれば理想的だと思っております。

それから、もう一つ、外国からの観光客にとっては、日本に来て買い物するというのが大きな楽しみの一つですが、買い物するにはやはり免税店という存在が重要だと思います。この免税店について、岡山で一つ事例ができましたので発表させていただきたいと思えます。

昨年の10月に外国人向けの消費税免税制度というものが拡大されて、免税店の許可が受けやすくなりました。大型店などの大手は自力で開設しますが、中小の商店街になると、商店一つ一つが取り組むにはかなり難しいと思われれます。岡山の中心市街に表町商店街がありますが、その中にあるデパートが免税店の許可をとり、その商店街の中で免税販売に取り組みたい人のお世話をし、商店街に来た外国人の免税店の手続を代行することを始めました。これは全国で初めての取組ということで、各地から随分商店街へ視察に来られております。ただ、外国人がたくさん来ているかという、それほどのことでもない

という点が残念なところですが、前向きな動きがあるということが、大切だと思い、御紹介させていただきました。以上です。

○溝口会長 ありがとうございます。

深山会頭、お願いします。

○深山会頭 広島も国内外の観光客、3年連続で過去最高を更新しているという状況であります。ちょっと時間も制約がありますので、1点だけ、取り組んでいる事例を申し上げます。広島商工会議所の都市機能強化委員会というのがありまして、先だって中国などのアジア系の外国人観光客で賑わっております大阪の、御存じの方もいると思うのですが、黒門市場を視察いたしました。黒門市場におきましては、外国人観光客の買ったその場で食べたいというニーズに対応するために、食べ歩きをコンセプトに掲げておりまして、外国人観光客向けのガイドブックの作成ですとか、新鮮な海産物を食べることのできるイーフトインスペースの新設、あるいはカットフルーツの店頭販売などが行われておりまして、平日の11時ごろ、昼前にもかかわらず、歩けないほどの買い物客で賑わっておりまして、当地域におきましても、こうした事例を参考にして、商店街とも協力しながら外国人観光客のニーズに対応していくということが必要であろうということを確認いたしております。以上です。

○溝口会長 ありがとうございます。

川上会頭、お願いします。

○川上会頭 今年、山口県では、ボーイスカウトの世界ジャンボリー大会というのが開催され、各国、140数カ国から3万4,000人ぐらいの人が集まる大きな大会がありました。また、萩で明治日本の産業革命遺産が世界遺産に登録ということもありまして、そういう面でのプラスアルファの要因が今出てきつつあるのかなと思っていますが、ただ、ここにありますように、宿泊者数を見ると、山口県に来て素通りしてしまうということも多いというのが現実です。

昨日だったですか、村岡知事のトップセールスで、アジアナ航空が山口宇部空港と定期便を結ぶという話が確かテレビか新聞で見たと思うんですが、持ち上がってきています。

今、中国からの観光は、爆買いの方に走って、結局福岡の方に流れてしまうというケースが多いのですが、韓国からやはり定期的に来てもらうとなると、これをいかに山口県に、あるいは中国地区に留めるかということをやはり我々としては考えないといけないと思います。

それともう一つ、韓国から来るだけでなく、こちらからも行くこと、会議所全体で何かツアーでも組んで、韓国に行ってもらうようなことも考えないと、一方通行だけでは長続きしなくなるんじゃないかと、心配します。恐らく知事のトップセールスで決まっていますが、是非そういうこと、こちらからも行くということもあわせて考えればと思うところです。

○溝口会長 ありがとうございます。

経済界の方々から、中国5県の取組等についてのコメント、いろんな御意見もいただきました。

平井知事から、知事会を代表してコメントをいただけますか。

○平井知事 今、皆様の方からお話がありましたとおり、これから中国地方の活性化の大きな種になると思います。新しい航空路線ができたり、さらには黒門市場の食べ歩きのようなアイデアですとか、また免税店、さらにはネットワークづくり、いろんな意味で今も建設的な意見が出ました。ぜひ、今日の話し合いをベースに、一層強化したいと思います。言うだけでなくて行動しなければ、お客さんは増えないと思います。また後日、山下会長の方ともじっくり相談をさせていただき、いい体制を組んで、来年に結びつけていければありがたいと思います。

また、今日のこのこととあわせて、一つちょっと残念なのは、クルーズ客船が、今一たくさん入ってくるようになりまして、広島港や境港にも入ってくるようになりました。しかし、九州や近畿と比べ、ちょっと競争力に劣るところがあるのは、やっぱり二次交通のバスの問題でして、深山会頭の方からいろんなお考えもあるのだろうと思いますが、そうした問題もいろいろとクリアしなければいけないことがあります。バスを調達するのも1県や2県でできるものではなくて、かなり広域でやらないといけないテーマです。事程左様に観光振興は5県のチームワーク、スクラムが大切だと考えていますので、どうかよろしくお願い申し上げます。

○溝口会長 ほかの知事、御意見、よろしいですか。

どうぞ、お二人。

○村岡知事 山口県もインバウンドの観光に力を入れてやっております。今幾つか紹介がりましたが、アジアナ航空と、ここ二、三年ぐらいチャーター便をやっているのですが、向こうからの利用が非常に好調であります。チャーターなので日本の旅行会社と韓国の旅行会社に割り振り、韓国の方から日本に来る方に9割を割り振っている中で、ほぼ97%が埋まっています。1割が日本からで、これがなかなか埋まらないという課題はあるのですが、ただ、去年の22往復に対して、今年は50往復に増やしたいというアジアナ航空の話もありました。こちらとしては、便数を増やすのであればいっそのこと「定期便をお願いします」という話をしております。

一昨日、アジアナの方から山口県庁の方に来られまして、来年の冬から定期便を就航する方向で検討しますという話があったので、これが正式な決定になるようにしっかりと進めていきたいと思っておりますし、また、国の方にもC I Qの体制の整備など、そういったこともこれからお願いしていこうと思っております。

今年、韓国にも行き、台湾等でも観光のセールスもやってきましたが、非常に強く感じるのは、やはり、日本に来よう、来たいという観光客数はそれぞれの国でどんどん伸びているということです。他方で、東京とか大阪とかであればもう行き飽きてきている人が多いので、どこか他にいいところがないかというのを結構探していると。なおかつ、東京、大阪はなかなかホテルがとれなくなっているので、せっかく需要がある部分をどこか他の地方で受け入れられるような、そういった形で日本のゴールデンルート以外のところの魅力をもっと我々も知りたいんだというのを、航空会社や旅行会社からよく聞きます。これは大きなチャンスだと思います。今回、官民と一緒にになって、新しい形でそういった情報発信をする本当に大きなチャンスであるし、ここを逃してはいけないと強く思います。新しい体制のもとでしっかりと連携しながら効果的な発信などができればいいなと思います。ぜひ一緒に頑張っていきたいと思っておりますので、よろしく申し上げます。

○溝口会長 ありがとうございます。

湯崎知事、どうぞ。伊原木知事も一言申し上げます。どうぞ順番で。

○湯崎知事 すみません、今回新しく海外観光客誘致強化委員会という形で進めるに当たります。先程ちょっと知事会でも発言をしたのですが、経済界の皆様いらっしゃるの、改めて申し上げたいと思うのですけれども、やはりこれを進めるときに、広域で進めるというのは非常に重要なことだと我々も思っております。他方で、我々5つの県が同じように延べタンで、この県にはこれがあります、この県にはこれがあります、この県がこれがありますみたいな提示の仕方だと、やはりなかなかうまくいかないと思っております。そういう意味ではしっかりと戦略を定めて展開をしていくことが重要であろうと思っております。

先程藤縄会長も縦ラインの重要性ということを強調しておっしゃいましたけれども、ここに配られてあります資料を見ても、我々がこう言うと何か誤解があると困るのですけれども、やはり今の人数的に見ると、広島、岡山というところが中心に訴求力があるという状況でありまして、ここからいかに山陰各県、あるいは山口も含めて広域で回っていただくということが重要だと思います。そういう意味で、集客をして、それを広域で回ってもらうという流れをつくっていくということだと考えています。

他方で、瀬戸内の方で今度、せとうち観光推進機構というのを作りまして、四国の3県と、この3県と兵庫県と合わせて、瀬戸内を一つのラインとして展開していくのですが、このラインで集めながら、それをまた中四国全体で回っていただくというようなことが一つ効果的なんじゃないかなと思っております。そういう意味では、ぜひ今後、中四国一体となった観点からもこの取組を進めていく必要があるかと思っております。ぜひその点、御理解をいただければと思っております。いずれにしても、各県の魅力が合わさることによって、全体としての魅力が向上するということは、これは間違いのないことで、それをどう組み立てて実際の誘客につなげていくかということから、今後進めていけたらと思っております。

○溝口会長 ありがとうございます。

伊原木知事。

○伊原木知事 じゃあ、もう一言だけ。

岡山県も、先程岡崎会頭がおっしゃられたように、外国人客が増えているわけですが、

これからまだまだ増えます。これは明らかです。GDP対比の観光の比率が普通の国並みになるだけで、今の2倍、3倍になってもおかしくないわけですし、ゴールデンルートに現にいられている外国人を中国地方に呼び込んでいる比率が、今、非常に低いわけでありまして、これから3回目、4回目の来日ということになると、随分違ってくるでしょうから、そうなると、やっぱりいろんなものが間に合わなくなってくるということで、我々もそれに備えておいた方が絶対にいいと思いますし、ここは本当に投資をするに値する数少ない分野かなと思っております。岡山県庁も投資をしておりますし、ぜひそれぞれの地域でタッグを組んで、この数少ないチャンスをうまく生かしていきたいと思っております。

今週末、おかやまマラソンがあります。岡山もいろんなイベントを仕掛けていきますので、どうぞ利用していただき、またお互いのイベントを活用できればと思っています。以上です。

○溝口会長 ありがとうございます。

時間が短くて言い足りないところ大分あると思いますけども、この後、懇親会がありますので、その場でもまた御議論できればと思います。

議論はここで終わりますして、中経連の方から御報告事項がありますので、お願いいたします。

○中経連事務局 中国経済連合会の内山です。若干お時間を頂戴いたしまして、当連合会が実施をしております要望活動につきまして御報告をさせていただきます。お手元の、豊かで活力にあふれる中国地域の創生に向けて（要望）概要をご覧ください。

当連合会では事業活動の一環といたしまして、会員企業、団体のアンケート調査結果等を踏まえまして、毎年、政策課題に係る提言書を取りまとめ、地元選出国會議員、政府・与党等への要望活動を行っております。

今年度につきましては、一昨日、11月4日ですけれども、山下会長及びそこに記載の副会長さん方が御出席されまして、地元選出国會議員との懇談会を行うとともに、関係各省、自民党本部への政策要望を行ったところです。

資料の2ページに、その内容につきまして概略書いてあります。要望項目ですが、地域産業の振興、それから経済成長という項目で、幅広く提言をいたしております。

本日は、時間の都合もありますので、御説明は割愛させていただきますが、本日の議題

に關しますところを御参考に申し上げますと、その下に、要望書の本書をおつけしております。3 ページですが、インバウンド観光の振興です。要望項目といたしまして、訪日外国人旅行者の誘客への支援強化ということです。ゴールデンルートに続きます西日本広域観光ルートの確立への支援、それから、先程もありました鳥取、島根県エリアの広域観光周遊ルートの認定、「せとうち・海の道」への継続的な財政支援ということを要望いたしております。

それから、女性の活躍推進というのでは、7 ページです。地方創生を担う人材の育成・確保の支援ということで、2 行目ですが、女性の活躍促進のための育児と就労の両立支援、それから女性の働き方に中立的な税制、それから社会保障制度の構築を要望したところで

御説明は以上です。ありがとうございました。

○溝口会長 ありがとうございます。

それでは、予定しておりました時間が参りましたので、これをもちまして本日の会合は終了したいと思います。議事進行に御協力をいただきまして、誠にありがとうございます。

(拍手)